

- ここでいう経営とは、将棋で言ったら駒でなく指し手をいう。業を成り立たせていくには、どのように運んでいくかを考えること。自分の考えを活す、運営するということ。考えるというのは、思いつくというのではなくて、思いついた案を練りなおす、じっくり考えてみるということで、自分の考えがピシッと腹に入るまで徹底的に練りかためる。その人の念いとなるところまでいく。そして実現するところまで。
- 経営とは迫られた問題の決断である。
経営とは流されないこと、成り行きに儘にしないことである。常に対応する案を考え、対処していくことである。しかも直進することではなく、経営計画を変化に対応させることである。経営も周囲も生き物で変化していくからである。
- 実態は盛り上ってきつつある。それをどこまで感じ、どこまで受けとっているか。
今の動きをどこまで見れるのか。
見えたことをどこまでやれるか。
- 「実顕地一つの実動」の動きから、これまでの懸案のテーマが次々と解消されていく事実をはっきり知って、自分のものにする。
- まず自分のところを充実させて、力が余ったら他のところへ力を貸していくという発想では……。今回の動きで、そこ(個人・職場・実顕地)だけ充実することは一体生活ではありえないことを知った。
- 今までの完全専門分業の害毒を知る。
専門知識・経理・労務・衛生・保安・その他。
原因は、一体の完全専門分業社会の無理解にある。
専業ではなく分業だということ。
一体観が深まれば深まるほど、完全分業も深まり、完全分業が深まっていけば一体観が深まる。少なくとも一体観がないと。分けていく前に、一体観を……。完全専門分業をつきつめていくと、
「してはならない、さしてはならない」ということになる。
自分の委務外の仕事をどこまでやれるか。委務と委務の間の仕事をうめていくのに、とり決めてなく一体で……。
気にならんいき方より、気にし合ういき方で。